スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道鷹栖町

自 治 体 名 ： 北海道鷹栖町
担 当 課 名 ： 教育課
電 話 番 号 ： 0166-87-2028

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	139.4 ㎢
人口	6,456 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	165 人
部活動数	9 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

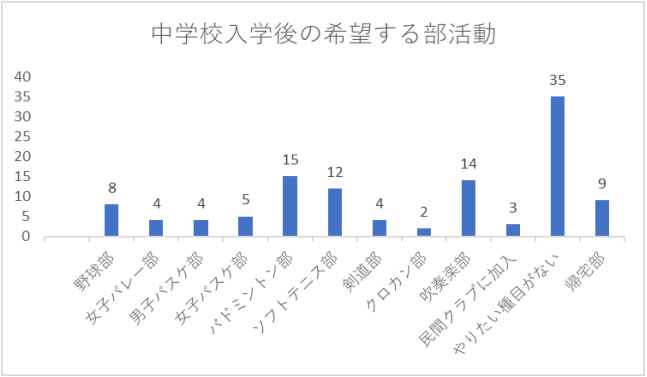
鷹栖町立鷹栖中学校の部活動加入率は80%と高く、加入していない生徒は近隣市町村のクラブチームに参加するなど中学生のスポーツ参加率は高い。顧問は、競技経験のある種目を担当しており、競技経験のない顧問がいる部活動には部活動指導員を配置している（３部活動３名）。

本町においては、令和５年度から行政、たかす総合型地域スポーツクラブ、鷹栖中学校、少年団が連携し、小学生から中学生までの一体的なスポーツ環境の整備に向けて実証事業を行っている。

部活動の課題としては、種目を専門指導できる顧問がいない種目や少子化により大会出場人数が確保できない種目があること。また、立地として都市部（旭川市）から近距離であるため、少年団活動に近隣市町村からの児童の参加が増加しており、指導者や保護者からは中学校に進学後も一緒に活動を続けたいというニーズが高い。

６年度に設立したNexusBC（バドミントン）は町内外から参加者や指導者が集まっており、中体連大会にも出場するなど活発な活動が行われている。

	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
1年生	59	51	52	51	56	45	46
2年生	51	59	51	52	51	56	45
3年生	60	51	59	51	52	51	56
合計	170	161	162	154	159	152	147
部活動加入率	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%
部員数	136	129	130	123	127	122	118
部活動数	9	9	9	9	9	9	9
1部活あたり	15	14	14	14	14	14	13
（中体連終了後）	10	10	9	9	10	9	8



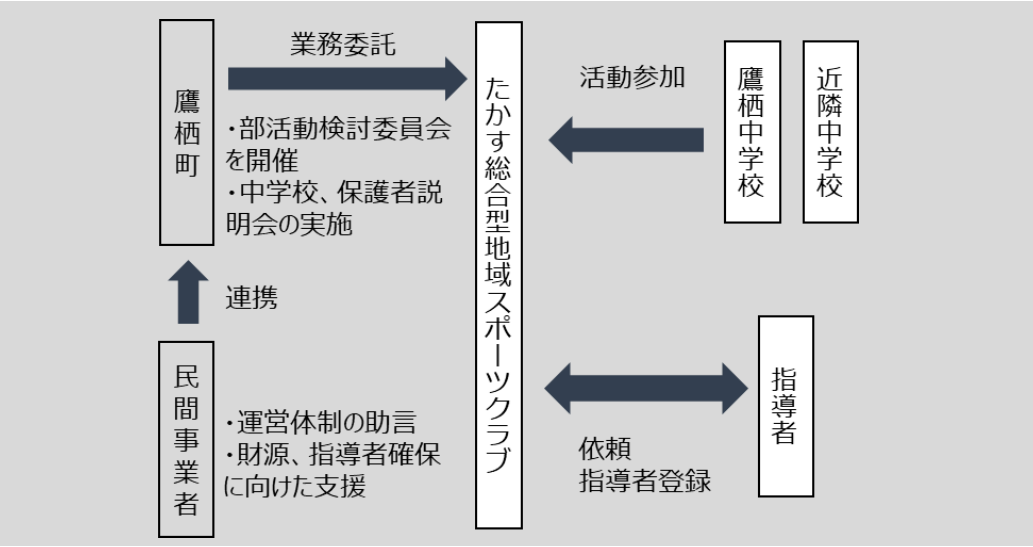
令和５年度鷹栖町小学生スポーツ・文化芸術活動に関するアンケート調査

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・部活動地域移行推進委託事業に関する業務

・たかす総合型地域スポーツクラブ、鷹栖中学校との調整・連携

・部活動指導員の配置

◉首長部局

・送迎支援の検討

年間の事業スケジュール

令和６年４月	NexusBC活動開始
令和６年５月	ゆるスポ活動開始
令和６年５月	バスケ、クロカン移行打合せ
令和６年10月	バレークラブ、からだつくりプログラム活動開始
令和６年11月	クロカンクラブ活動開始

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	１校	実施した地域クラブ総数	５クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		３クラブ（３部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		２クラブ
全体の指導者数	１１人	全体の運営スタッフ数	３人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
NexusBC	たかす総合型地域スポーツクラブ	バドミントン（新）	週 ４ 回	18:00~20:00	３年生１名 ２年生３名 １年生9名	令和６年４月~令和７年３月	鷹栖中学校	４ 人	２ 人（内、兼務１人）	月会費 1700円／年会費 0円	中体連・その他：地域クラブ
バレークラブ	同上	バレーボール	月 ２ 回	13：00~15：00	２年生４名 １年生６名 小6年生2名	令和６年10月~令和７年2月	鷹栖中学校	２ 人	１ 人（内、兼務１人）	年会費 500円	中体連：部活動
クロカンクラブ	同上	クロスカントリースキー	週 ５ 回	17:00~19:00	３年生2名 １年生2名	令和６年11月~令和７年3月	鷹栖町総合スポーツ公園	１ 人	１ 人（内、兼務１人）	年会費 12,000 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
ゆるスポ	同上	多種目	週 １ 回	16:00~18:00	１年生３名	令和6年5月~令和7年３月	鷹栖町総合体育館	１人	０人	１回100円	
カラダつくり	同上	ストレッチ、筋トレ	年５回	9：00~12：00	１年生36名 ２年生29名	令和６年11月~令和７年１月	鷹栖中学校	３人	０人	無料	

③その他、体験会やイベント等の開催実績

● ２月15日（土）、NexusBC及び鷹栖町バドミントン少年団を対象に、バドミントン女子ダブルス元世界ランク１位の永原和可那選手に来町いただき、バドミントン講習会を開催した。

2.実証内容と成果

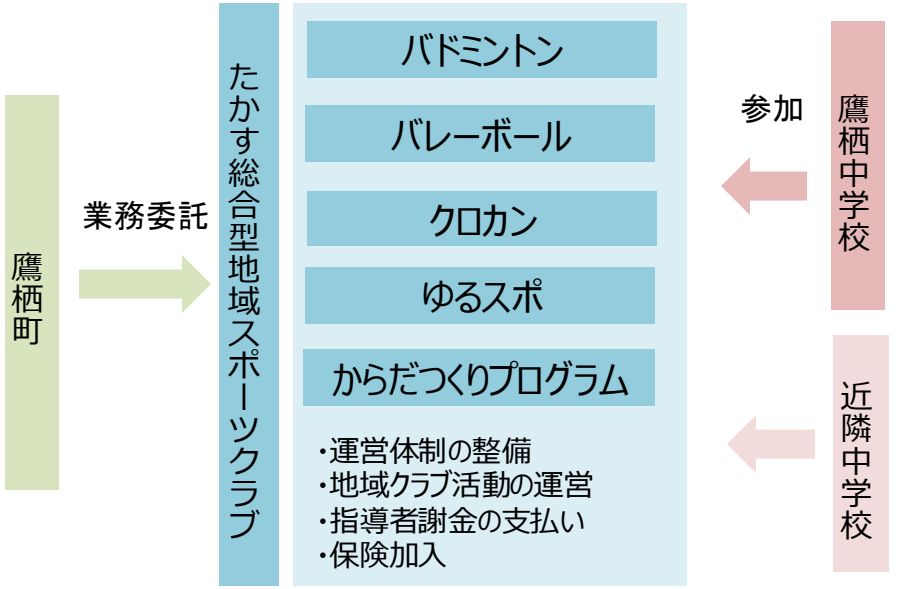
スポーツ庁

主な取組例

●たかす総合型地域スポーツクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン、バレーボール、クロスカントリースキー、ゆるスポーツクラブ、からだつくりプログラム
運営団体名	たかす総合型地域スポーツクラブ
期間と日数	バドミントン：４月１日 ～ ３月31日　週４回 バレーボール：10月１日 ～ ２月15日　全10回 クロスカントリースキー：11月１日 ～ ３月31日　週５回 ゆるスポ：５月１日 ～ ３月31日　週１回 からだつくりプログラム：10月１日 ～ ２月21日　全4回
指導者の主な属性	少年団指導者、地域在住の有資格者
活動場所	鷹栖中学校、鷹栖町総合スポーツ公園、鷹栖町総合体育館
主な移動手段	徒歩、保護者送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	バドミントン：20,400円 バレーボール：500円 クロスカントリースキー：12,000円 ゆるスポ：6,000円 からだつくりプログラム：無料
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う

●運営補助者　２名

役割：地域クラブ活動における事務作業や会計等を行う

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

〇たかす総合型地域スポーツクラブが運営主体となり、指導者の確保、会場の調整、参加者の集約、当日の運営等について実証事業を行った。
〇中学校との調整は教頭及び部活動担当教員を窓口に、進捗状況の報告や体育館の利用調整などを行った。
〇株式会社BUKARU（札幌市）と鷹栖町が、同社が有するスポーツネットワークを活用した財源・指導者の確保や活動の広報について連携協定を締結した。

取組の成果

〇たかす総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャーをコーディネーターとし、鷹栖町教育委員会と連携し、関係者との連絡調整や各地域クラブの運営体制の整備を行った。
クラブマネージャーには地域クラブとして大会に出場するための選手登録や大会申込手続き、日々の練習計画の調整、作成、共有、学校との調整など幅広い業務が求められた。
〇株式会社BUKARUとの連携により、たかす総合型地域スポーツクラブの運営に対する助言・支援や、様々な場面で本町の地域移行の取り組みをPRいただいた。広報効果によるバドミントンクラブの次年度入団希望者の増加やそれに伴うバドミントン少年団の団員増加に繋がった。



コーディネーターの具体的な動きの実績

・中学校教頭、部活動担当教員、部活動顧問との調整
・部活動顧問からの事務引継ぎ（予算、大会申込など）
・保護者会への説明
・地域クラブ実施日の体育館の鍵開け、受付など

今後の課題と対応方針

〇令和６年度は５つの地域クラブ運営による事務や休日対応、保護者対応などが多岐にわたり、現状のたかす総合型地域スポーツクラブの人員では不十分な点があった。次年度は地域クラブ運営専属の正職員を１名雇用し、対応する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保証・量の確保　／　キ：学校施設の活用等

取組事項（イ）

〇元教員（バドミントン）、スポーツ少年団指導者（バドミントン）、種目経験者（クロカン）、地域おこし協力隊（バドミントン）、元アスリート（バレーボール）、理学療法士（カラダつくり）など地域人材の協力をもらい実施できた。
〇鷹栖町独自の人材バンクは設置していない。

取組の成果（イ）

〇バドミントンは、現在の指導者の紹介により、新たに１名を鷹栖町地域おこし協力隊として採用し、たかす総合型地域スポーツクラブの事務員兼バドミントンクラブの指導者として活動している。
〇クロスカントリースキーは、クロカン指導経験のある町民に協力を依頼し、平日・休日ともに指導をいただいている。指導に来られない日は少年団と合同練習を行うことで、子どもたちが安心して活動できる環境に繋がっている。

取組事項（キ）

〇バドミントン、バレーボール、からだつくりプログラムの活動を鷹栖中学校を拠点に開催した。

取組の成果（キ）

〇運営主体であるたかす総合型地域スポーツクラブが学校開放の申請を行い、部活動終了後の時間帯を活用した。
〇次年度からは部活動の体育館使用ローテーションの中に地域クラブも入れていただくことができたため、活動場所の確保や、子どもたちの負担軽減に繋がることが期待される。

今後の課題と対応方針

〇バスケットボールの指導者を確保でき、７年度からたかす総合型地域スポーツクラブのスタッフ兼指導者として採用が決定している。
〇６年度はバスケットボールでは実証事業は実施できなかったが、採用する指導者とともに少年団と地域クラブの連携を進めることができ、指導者間の情報共有、練習や大会時における相互の手伝いなど連携が図られ、指導者の負担軽減に繋がった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化　／　オ：内容の充実

取組事項（ウ）

〇学校と連携し、新入生説明会、部活動後援会等において、本町の取組の進捗状況を説明し、保護者からの理解を促した。
〇指導のための学生派遣について、旭川市立大学と包括連携協定を締結した。
〇町所有の社会教育車を活用した送迎支援を、首長部局と連携して体制の検討を行った。

取組の成果（ウ）

〇学校に保護者が集まる機会を活用し、中学校とともに保護者への進捗状況の説明を複数回実施することができ、取組みの理解に繋がった。
〇送迎支援については、町所有の社会教育車を活用したサービスを令和７年度４月からの運行に向けて協議を行った。少年団を含めた支援とし、子どもたちのスポーツ活動支援を目指す。

取組事項（オ）

〇中学生期の体づくりやけが予防を目的に運動部活動に加入する１、２年生80名を対象にからだつくりプログラム開催した。町内在住の理学療法士３名に協力を依頼し、身体状態に関するチェックテストなどを実施し、身体機能の改善や身体を思い通りに動かせるようになることが、パフォーマンス向上に繋がることを教わった。

取組の成果（オ）

〇指導に携わっていただいた理学療法士からは、地域の子どもたちの身体を見る機会や指導できる機会をもらい今後も続けていきたいという声があった。
〇参加した子どもたちからは、「怪我のリスクや自分の身体の弱点を知ることができてよかった」、「教わったトレーニングを部活動や自宅で取り組みたい」という声があった。
〇休日に開催し、部活動は休養日としたことから、顧問の負担軽減にも寄与した。
〇経費としては、保険料及び講師謝金の支出を行った。

今後の課題と対応方針

〇送迎支援について、乗車場所や運航時間について、保護者や少年団と協議を実施している。子どもたちが安全安心に活動ができ、保護者負担を軽減することにより、スポーツ実施率の向上を目指す。
〇たかす総合型地域スポーツクラブにてコンディショニングトレーナーを養成し、理学療法士とともに定期的に子どもたちの身体のサポートを行う。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本実証事業においては、鷹栖町教育委員会と運営主体であるたかす総合型地域スポーツクラブ、鷹栖中学校が連携した形で地域移行に取り組むことができた。

また、望ましい将来像として、たかす総合型地域スポーツクラブに地域クラブと少年団を統合し、小学生から中学生までのスポーツ環境を整備する方針が確立され、保護者や指導者へ共有を図った。

実証事業の成果としては、今年度バドミントン及びクロスカントリースキーにおいて、地域クラブ活動を通年で実証する試みであった。運営主体側の事務の洗い出しや指導者・保護者との連携方法を確立したほか、どちらの種目とも地域クラブとして大会に出場したことから、指導者の旅費や大会参加費など将来的にどの程度の運営費用が発生するか掴むことができた。

バスケットボールの移行を試みた結果、女子バスケで２名、男子バスケで１名の指導者を新たに確保でき、令和７年度以降のミニバス少年団と地域クラブの統合にも繋がっている。

●成果の評価

令和６年度の実証事業においては、指導者発掘に時間を要したことからバスケットボールの実証事業を実施できなかった。その他種目については計画どおり地域クラブ活動を実施することができた。

バドミントン及びクロスカントリースキーについては、部活動顧問の負担軽減に効果があった。また、バドミントン部の生徒は休日を休養日とするか活動日とするか選択ができ、休養日を選択した生徒は、ゆっくり休めることで、平日の学校活動に活気が出ていると学校からのフィードバックをもらっている。

保護者説明会は４回開催し、指導者の確保や参加費用の増加、練習時間・場所の変更などに対する不安の声が上がっている。本町としても受益者負担以外の財源を獲得し、安心安全なスポーツ環境を整備することを引き続き検討していく。

●今後に向けて

・まだ移行していない種目（野球、男子バスケ、剣道、ソフトテニス、バレーボール、吹奏楽）については、指導者の確保や学校、保護者と連携し、移行に向けた検討を行い、望ましいスポーツ環境を整備していく。

・令和７年度からは、地域クラブ運営を専門とするコーディネーターをたかす総合型地域スポーツクラブに配置し、保護者や学校との窓口として機能させていく。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【バドミントン】



【クロスカントリースキー】



【永原和可那選手講習会】



【からだつくりプログラム】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年

協議会設置、検討開始 ▶ **受け皿団体の選定 移行種目の選定** ▶

令和６年

学校との調整 ▶ **生徒、保護者への説明 少年団との連携** ▶ **地域クラブ活動の開始** ▶

令和７年

地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー
たかす総合型地域スポーツクラブ
●経過
令和５年３月に設立し、鷹栖町より地域移行体制整備構築委託事業を受託。
●実施にあたって生じた課題
人員の確保、指導者の確保、予算の確保
地域クラブ運営方法
●実施内容、工夫した点 等
町教育委員会との密な連携を図るため、クラブ事務所を教育委員会内に設置し、毎月の定例ミーティングにより連携して事業を進めることができた。

●ステークホルダー
鷹栖中学校
●経過
教員へ部活動地域移行の理解を促す説明会を実施。
教員から意見を聴取し、移行種目を選定した。
●実施にあたって生じた課題
地域移行に対する不安感から、教員からの理解や協力を得るために時間を要した。
地域クラブと学校との関わり方が不透明。
●実施内容、工夫した点 等
専門指導ができる教員がいない種目を優先的に移行することで学校の負担を軽減した。
令和７年度から元中学校校長を採用し、学校と連携を一層促していく。

●ステークホルダー
少年団指導者
●経過
子どもたちのスポーツ活動の継続に対する危機感を持つ指導者が多く、地域移行に協力をいただけている。
●実施にあたって生じた課題
少年団における競技人口の減少
●実施内容、工夫した点 等
少年団とたかす総合型地域スポーツクラブによる小学生対象の体験会を開催し、ミニバス少年団に10名の新規加入があった。
指導者とのミーティングにより、将来的に少年団と地域クラブを統合した形を目指し、地域スポーツの維持を図る方針を共有できた。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	2023年度（R5年度）	2024年度（R6年度）	2025年度（R7年度）	2026年度（R8年度）
鷹栖町	鷹栖町部活動地域移行検討協議会設立 小学生・中学生アンケート調査の実施 鷹栖町移行方針策定	(株)BUKARU連携協定 旭川市立大学連携協定	運営支援、新たな財源の発掘 指導者人材の発掘	参加費負担の軽減策
	・参加費以外の財源を確保し、誰でも地域クラブに参加することができる環境を整備。 ・地域スポーツの持続化を目的に、少年団と地域クラブの連携、統合に向けた検討する。			
たかす総合型地域スポーツクラブ	運営主体として実証事業開始	バドミントン部移行（NexusBC設立） クロカン部移行（鷹栖町クロカンクラブ設立） 指導者確保 女子バスケ部移行（REDWOLVES設立） 指導者確保 野球、男子バスケ部移行 からだつくりプログラム・ゆるスポーツクラブによる内容充実 トレーナー雇用 理学療法士雇用 地域クラブコーディネーター雇用		
	・安心安全なスポーツ環境を目的とした地域クラブコーディネーター設置による窓口の明確化。 ・健全育成を目的としたトレーナーや理学療法士によるけが予防、コンディショニング面の支援。			